

式辞

長く続いた春の寒さもようやく緩み、白木山はその山ごと、全身で芽吹き始めました。全てのものが萌え出る春の佳き日に、広島市議会議員 若林新三 様をはじめ、六名のご来賓のみなさま、また、広島市教育委員会委員 一橋信之 様、PTA会長 松原正智 様をはじめ、本校に縁ある多くの方々のご臨席を賜るとともに、保護者・ご家族のみなさまのご列席のもと、広島市立広島中等教育学校第十二回入学式を挙行できますことは、教職員一同にとりまして、大きな喜びでございます。

ただいま、入学を許可いたしました十二期生のみなさん、ご入学、誠におめでとうございます。受験という厳しい道を選び、本校を選んでくださったこと、とても心強く、うれしく思います。本校を代表し、心より歓迎いたします。

本校は今年度、開校十二年目を迎えます。ようやく干支がひとまわりする新しい学校ですが、その前身には安佐北中学校・高等学校があります。正門の桜が物語る伝統と、県内初の中等教育学校という革新、その二つを合わせ持つ、それが、広島中等教育学校なのです。

さて、晴れて本校生徒となったみなさんに、私から大きく二つ、お願いしたいことがあります。

一つ目は、向かって右手に掲げてある「校訓」、安佐北時代からの伝統を受け継ぐ、「修学 克己 敬愛」の実行です。

まず、「修学」とは、学習したことをしっかりと身につける、という意味です。みなさんはこれから、色々なことを学ぶことができます。学問はそれそのものがとても興味深いものですが、「わからない」「苦手だな」と感じることもあるでしょう。そんな時は、少し気持ちと見方を変えてみてください。「面白い」に変えることができるかもしれません。あるいは、先生に積極的に質問し、友人とともに学習してください。「わかった」に変えることができるはずです。

次に「克己」とは、自分自身に打ち克つ、という意味です。みなさんは、どうすれば自分に打ち克つことができると思いますか。例えば、陸上競技の選手は、自分の記録、自己ベストを更新することを目標に、日々、練習するそうです。どんなに練習しても、次の試合で記録が伸びるかどうかはわかりません。それでも走り続ける、それは自分に打ち克つとする姿そのものです。みなさんも、昨日の自分に打ち克つことを目標に、学校生活を送ってください。

そして「敬愛」とは、周りの人を大切にすることです。今、ここにいる十二期生は、これからの六年間をともに過ごす仲間です。日々の授業や学級・学年での活動、そして学年を超えた行事や部活動を通して、お互いを高め合う大切な存在になっていきます。よりよい学級や行事を作ろうと思えば、時には話し合いが必要になることもあるでしょう。そんな時、大切にしてほしいことがあります。それは、「お互いを認め合う」ということです。自分の意見を主張するだけでなく、相手の意見と、その人自身を認める心を持ちましょう。

これが、一つ目のお願い、「修学 克己 敬愛」の実行です。

二つ目は、みなさんは中学生になったのではなく、中等教育学校の生徒になった、という自覚を持ってほしい、ということです。

三年後、みなさんは義務教育の期間を終え、四年生に進級します。その時、受験はありません。次にみなさんが選ぶのは、高等学校ではなく、自分の将来に直接つながる道になります。一人ひとりが自分の世界を広げ、学びたいことを学び、なりたいものになることができるように、先生たち全員で、みなさんを

支えます。

本校は、学校教育目標として「高い志を持ち、品格を備えたグローバル人材の育成」を掲げています。みなさんは将来、世界で活躍することもできます。日本にしながら、世界に通用する人にもなれます。その時に必要なのが、高い目標を持ち、その実現に向けて努力できる力、社会の当たり前を知った上で、それを自分なりに判断して、未来のために行動に移す力です。

今日から自分の将来のための毎日が始まります。二つ目のお願い、中等教育学校の生徒として、一日一日を前向きに過ごしていきましょう。

ここで、保護者のみなさまにもお願いがございます。

一つ目は、お子様をしっかり見守っていただきたい、ということです。お子様のご家庭で、学校や友人のお話をたくさんされると思います。まず、それをしっかり聞いて差し上げてください。その中には、楽しいお話もあれば、様々な困難に関わる相談もあるでしょう。その相談が、少し時間はかかるかもしれないけれど、お子様自身の力で解決できそうなことがらであれば、すぐにアドバイスしたいお気持ちをこらえ、見守っていただきたいのです。

二つ目は、お子様のよりよい成長のため、私たち教職員と連携・ご協力いただきたいということです。例えば、お子様の悩みがお子様自身の力では解決できないと判断された時には、すぐにお知らせください。あるいは、お子様の成長のために必要なことがらに、ともに取り組んでください。ご家庭と学校が手を携えることで、お子様の将来を切り開いて参りましょう。

結びに、十二期生のみなさんの、広島中等教育学校での六年間が実り多きものとなり、みなさん一人ひとりがその将来と世界の未来に向かって、大きく成長されることを祈念いたしまして、式辞といたします。

令和七年四月八日

広島市立広島中等教育学校
校長 合原 実世